

58. 2. 14(今)

山の手町の一角、緑に囲まれた広大な敷地に赤い瓦の洋風建物がある。中山別荘といわれているが、大正九年、元貴族院議員で富士紡創設者と田豊治氏が建てたもので、アメリカン・コテージ式（アメリカの田舎家）。設計は和田氏の依頼で東京アメリカ屋の設計主任山本拙郎氏と遠藤健三氏が担当、建築に当っては遠藤健三氏が現場工事主任としてその才腕をふるった。当時は「和田別荘」と呼ばれ、資材の大半は東京から列車で送られた。大正十一年五月には久邇宮良子（くにのみやながこ）「現皇后様」がお泊まりに

# 大正文化の典型建物

## 山の手町にある米国風「中山別荘」

なり、別府見物をされた。戦後は米軍司令官舎となったこともあった。

昨年この別荘建築を担当した遠藤氏（こ）が六十年ぶりに来別、とんがり屋根のバンガロースタ

イルの洋風建物が昔とかわっていないことに感激した。岐阜市在住の遠藤氏は来別前に安部市立図書館長に中山別荘の調査資料送付を手紙で依頼している。ちなみにこの別荘は敷地二万三千二百平方尺、建物は延べ五百九十四平方尺あり、大正文化の典型建物として別府に残る数少ないものの一つ。



大正の文化をいまに（中山別荘）